

## 災害時に活用できる装備・制度等（案）

## ○ 駐屯地施設等の一部提供

政府現地対策本部近郊に自衛隊の駐屯地等が所在する場合、任務に支障の無い範囲で、現地対策本部要員の宿泊、給食等を支援し、駐屯地等を生活基盤として活用。

陸海空駐屯地・基地：250カ所



## ○ 戦闘用糧食の提供

政府現地対策本部要員に対し、自衛隊が備蓄している戦闘用糧食の一部を提供。戦闘用糧食のメニューは21種類あり、コンロなど暖める器材がなくても、簡易加熱剤を使用し暖かい食事を取ることが可能。 保有数：約500万食



## ○ 即応予備自衛官、予備自衛官の活用

発災後迅速に招集し、自衛隊在職間、退職後の資格を活用した活動に積極的に従事させる。予備自衛官等は退職後地域に根付いているため、避難所での生活支援など、普段から顔の見える関係を活かした活動も可能（今般の熊本地震では、避難所において、看護師による衛生指導、整体師・鍼灸師によるマッサージ、作業療法士による健康指導を実施。物資集積所では、フォークリフト操作資格を活かした積載支援を実施）。



## ○ コンテナ式可搬シェルタの貸与

自衛隊の人命救助システムの構成物品として保有するシェルタは発電機、給排水設備を装備しており、被災自治体における現地調整所、職員の休養施設等として活用が可能。（床面積：約42㎡） 保有数：約40コセット



## ○ 無人偵察機システム・遠隔操縦観測システム

無人機及び地上装置で構成され、無人機はプログラム制御により飛行させることができ、火山観察や土砂災害観察など危険が伴う地域での活用が可能。

保有数：5コ式×4機 可視カメラ・赤外線カメラ搭載



○ 陸路での移動困難地域での消火活動

道路の寸断された地域など、消防車での消火活動が困難な地域では、回転翼機を活用し、上空からの消火活動を実施。

取水量 CH-47：約7t



○ 自衛隊の通信システムの活用

陸上自衛隊の保有する通信システムを活用し、現地対策本部（県庁）や被災自治体（市町村役場）に構築することで、情報の共有に活用。



○ 野外手術システム（医療用モジュール）の活用

陸上自衛隊の保有する野外手術システムを、病院が近傍になく、負傷者の多い地域に配置するとともに、一方で艦船に搭載し応急治療を実施する。艦船に搭載した場合、負傷者は自衛隊ヘリコプターにより搬送。

開胸、開腹、開頭術等の初期外科手術が可能

保有数：約20コセット



○ 機動支援橋（組み立て式の橋）の架設

既存の橋が壊れ、対岸への交通が寸断された場合に、河川の流速及び土質の影響を受けることなく架設が可能な機動支援橋を迅速に設置。

最大全長：60m 保有数：約10コセット



○ 移動式気象レーダー装置の活用

航空自衛隊の飛行場（基地）周辺の気象状況を観測する車載型の移動式レーダーのため、被災地周辺の気象状況を観測し、気象庁の観測支援に活用。 保有数：2コセット



○ 野外洗濯セットの活用

入浴支援時、野外洗濯セットを設置し、入浴中や入浴後に被災者の衣類の洗濯を実施。 保有数：約20コセット

洗濯量：作業服40着/h、乾燥量：作業服40着/h



○ 浄水セットの活用

河川、湖沼等から取水し原水中に含まれる細菌ウイルス等を除去し、飲料水を提供。

保有数：約60コセット、浄水能力：3.5t/h



○ 仮設住宅設置場所の整地

自衛隊の保有する施設作業車を活用し、仮設住宅設置場所の整地を実施。



○ 授乳施設等としての天幕の貸与

避難所に隣接した形で天幕を設置し、授乳施設等、特に女性のプライベート空間を提供。

宿営用（6人用）天幕 保有数：約2万張り

業務用（8～10人程度）天幕 保有数：約1,500張り



○ 女性自衛官による御用聞き

女性自衛官による避難所巡回を実施し、女性にしか聞き取れないニーズを聞き出し、きめ細かい援助物資の把握に寄与。



○ 簡易トイレの貸与

自衛隊の保有する簡易トイレを避難場所に貸与。 保有数：約2万個

○ 被害家屋の写真の提供

避難所から、被害家屋（自宅）まで移動できないお年寄りに対し、情報収集の機会を活用し、被害家屋の写真を撮影し提供。

○ 警備犬の活用

海上自衛隊及び航空自衛隊が保有する約300頭の警備犬の中には、国際救助犬連盟の資格を有する警備犬（8頭）を飼育。災害救助現場において、自衛隊の隊員とともに救助活動に従事。

○ 引っ越し支援

避難所を統合する場合や、仮設住宅への引っ越しの際、避難者の荷物等を輸送。